

農繁期

レポート

令和2年 7月号

エースファーム

オーナー	株式会社エース
水田面積	20.1アール
保証量	玄米 905kg
形態品種	特別栽培コシヒカリ



生産者 高橋 秀紀さん

長かった梅雨も30日に明け、やっと夏が来ました。梅雨の期間が6月10日から約50日間でした。その間、ほとんど晴れ間がなく、日照不足が心配でした。例年7月中には穂が出始めるのですが、今年は一週間程度遅れてるように思います。これから暑い日が続く様ですので、収穫まで順調に行くことを期待しています。減反の田んぼにはひまわりが満開になり、コロナで不安な気持ちも明るくしてくれます。とても綺麗です。

7月の作業内容と稲の病気

1. 中干し

稲は田植え後からどんどん生長して枝分かれしていきますが、その成長を強制的に止める作業を中干しと言います。土壌へ酸素を供給し、根を健全に保つ役割や土の中の有害ガスを抜く目的などで実施します。



2. 溝切り

全ての田んぼに行う作業ではなく、中干しの際、すぐに水が引いて硬くなる田んぼにはせず、染み出す水があたり深い田んぼには行うものです。これを行うことで土中の有機物の分解の時にでるガスを抜くこともできます。



3. 追肥

田植え前に土に混ぜ込んだ肥料を「元肥」といい、穂が出る直前に入れる肥料を「追肥」と言います。量が少なければ収量が減り、多すぎると稲が伸びすぎて倒伏し品質が落ちます。タイミングも量も非常に重要な判断が求められます。



お米の病気(イモチ病)

菌の寄生が原因で生育期間や場所問わず発生し、葉を枯らして大きな被害をもたらすのがイモチ病。低温と多雨による日照不足の年は発生しやすいため注意が必要です。苗作りの種子消毒と窒素肥料の適正量を守ることで予防できます。

